



福王寺だより

目を離すな」

「何ゆしてほしいか小豆が教えてくれる」

「食べる人の幸せそうな顔を思い浮かべえ」

「おいしゅうなれ。おいしゅうなれ。おいしゅうなれ」

「その気持ちちが小豆に乗り移る。うんとおいしゅうなつてくれる」

「甘えあんこが出来上がる」

この何して欲しいかは「小豆が教えてくれる」という言葉が好きです。

私達は「あんこを作った！」となりがちですが、美味しいアンコは小豆が教えてくれる。「今が美味しいよ！」と小豆が私達にメッセージを放つてくれている。

小豆と対話しながら、アンコをこの世界に表現している。決して自分だけの力

でなく、お互いが高めあつて一つのをこの世に生み出しているのです。

「彼岸」

彼岸とは彼方の岸と書きます。インドではガンジス川に例えられ、向こう側を悟りの世界、こちら側を「此岸」、私達の住む苦しみの世界を表現します。

一つ言いかえれば、こちら（私）と世界（他者）とも言えるなど感じていきます。自分を超えたところに到る世界が彼岸なのかな？とも考えるのです。

アンコにしてみても、自分が作っているのだけど、小豆が自分でアンコになるために美味しくなつていてもいえます。

そこに、自分と他が融合したような世界があるのではないかと。

仏師の人も仏を彫り出すとき、木の中に仏がみえるとおっしゃり、ただ



カムカムエブリバディ

朝のドラマの「カムカムエブリバディ」を観ているのですが、その中に「小豆のおまじない」というフレーズが印象的です。その都度毎に現れるメインテーマのようなフレーズ。

「小豆の声を聴けえ。時計に頼るな。」

木が仏さんの姿になれるよう、仏師の方が手助けしているだけのような感覚。相手があつてはじめて自分がいて、お互いが影響しあつて今の世界が成り立っています。

こころした調和を大切にしている。

お参りをするのもそういう感覚があるのではないかと思うのです。

「生きる」上で、もちろん私が生きるのですが、目に見えない大切な存在に支えられて今私達があるともいえます。

死者はたくさんのメッセージを投げかけてくださる。「幸せでやりなさいよ!」、「応援しているよ!」。

自分一人ではなく、目に見えないもの様々なメッセージを受け取つて、他と調和して過ごしていきたいですね。

末筆ながら、一日も早いウクライナの戦争が終わりますよう。

南無大師遍照金剛

行事のご案内

「春下座行」

四月二十四日

午前八時三十分

於 津別町福王寺

※お寺の掃除にきてみませんか? 誰でも歓迎です。きれいな境内は、お参りに来た方を快くします。皆様の力で功德をつみましょう。

「福王寺八十八カ所霊場

山開き 並 毘沙門天祭」

五月十日 十一時より

於 津別町福王寺

福王寺境内の八十八カ所霊場を巡拝します、春を感じ、お寺の八十八ヶ所を参拝しませんか? また福德の神、毘沙門天様のお参りを致します。福がありますよう、ご一緒に願ひましょう。お接待はコロナウイルスの影響で判断致します。早く皆さんと一緒に、食事したいと思つてます。

寺院 活動報告

春彼岸 弘法大師正御影供



令和五年4月
四国八十八ヶ所巡礼予定

来年は弘法大師生誕1250年です。記念に四国を巡礼したいと思います。詳しくは別紙にて、ご確認願ひします。



感謝を込め、
また幸せであるようお参り致しました。